

ひるまだより

2006.1 vol.7



＜今月の花＊寒ツバキ＞

医療法人
ひるま矯正歯科
Hiruma Orthodontic Office

【ひるま矯正歯科】立川市曙町2-9-1 菊屋ビルディング2F
TEL:042-526-3376 URL:http://www.hiruma.or.jp/

一陽来復

冬至を一陽来復（いちようらいふく）といいますが、この日を境に日が長くなることから、冬至は太陽の力が復活する日と考えたことに由来します。転じて、「良くないことが続いた後、幸運が向いてくること」の意味になり、初春の言葉になりました。ということで、「一陽来復の春、今年も皆様にとってより良い年でありませうように。」

今号より「トビックスから」を新設しました。新聞、テレビ、雑誌、専門誌などで見つけた話題を抜粋してお届けします。

ドキュメンタリー・矯正治療 矯正治療の進め方 レベリング2

このドキュメンタリーの患者さんの歯並びのデコボコの程度は軽度のもので、レベリング前後の変化が小さく、専門家でない一般の方にはその変化を理解することが難しいため、今回はもっと歯並びがデコボコして八重歯がある患者さんのレベリングをご覧頂くことにします。

昨年一月から治療を開始した当院スタッフの治療の様子を経過とともに解説入りで掲載。詳細はホームページで

上下のワイヤーが平行に近くなり、犬歯の位置は歯の根元側から、噛む面（上顎の犬歯は下方へ、下顎の犬歯は上方へ）の方向へ移動し、歯の並んでいる高さが揃えられました。治療開始前に歯列の外側に飛び出していた犬歯が、内側に移動し歯列に連続性が生まれ、八重歯が改善されました。

八重歯がある症例のレベリング～治療開始前～



八重歯とは、上顎の犬歯が上の方（歯の根元方向）に生えてきてしまった状態です。噛む面からみた写真「右」では、犬歯の生えてくる位置が唇側に変化しています。

～レベリング開始時～



レベリング開始時、装着したワイヤーが上方に大きいたわんでいます。ワイヤーのたわみにより上顎の犬歯は下方へ、下顎の犬歯は上方へ向かう力が働いているのです。

～レベリング終了時～



レベリングでは、歯の上下的な高さを改善する事が目的の1つですから、八重歯がある症例では、レベリングの段階で犬歯の位置が大きく変化し、八重歯を大きく改善する事が可能です。しかし、歯列にある歯と歯のスペースはレベリングで改善出来ません。スペースのコントロールは、次のステップ【犬歯の移動】【前歯の移動】で閉鎖していきます。

注意 この症例では上顎第1小臼歯（犬歯の1本うしろの歯）を抜歯しています

歯と口の健康と食育

（2005年10月7日 読売新聞）

国は、食を社会全体の問題と捉え食育を強力に推進するとして、昨年7月、食育基本法を制定、施行しました。それを受けて開かれたフォーラムでの発言から。

乳を吸うことは生まれつきですが、咀嚼（そしゃく）は教育です。テレビ相手の「孤食」ではなく、みんなで楽しい食事をし、その際に歯の役割も教えて欲しい。食事の際には決して「早く食べなさい」とはいわず、「よく咬んで食べなさい」と教えて欲しい。子育ては親育てとも言われます。子供の食事作りを通じて

て、親自身の食生活も見直してください。

（幼稚園園長 藤沢彩）
食の教育というのは生きることですから、読み書きそろばんより先にしないといけない。家事も食事も外注できる時代ですが、子育てはお金に代えられない大切なものです。育児不安解消の鍵は父親と言われています。ゆっくり楽しく食事をとることは、きずなを深め、子供に食べる楽しさを伝えることになりました。平日に1、2回でも夕食を家庭でとる日を決めるなど、父親にも頑張ってもらいたい。（小児歯科医 兼元妙子）

ヒルマトキオの ホッとひと息

昔、日本人は山桜を穀霊の宿る花と信じ、その一年の移ろいを折々の農事の目安にしたそうですが、花より葉が先行する山桜は、葉だけが目立って現代人にはあまり好まれないようです。

三代目三遊亭金馬（1964年没）が活躍していた頃、ある寄席番組のなぞ掛けで「金馬師匠と掛けて山桜と解く」というのがありました。その心は、皆さんお分かりでしょうか。答えは「花（鼻）より葉（歯）が先に出る」。歯切れのいい語り口で人気のあった三代目金馬は、名前の頭に「出っ歯の」と付くほどの上顎前突でした。そのなぞ掛けが頭に残っていて、ある時ある女性に「貴女は山桜みたい」と言ってしまうたかは覚えていませんが、彼女の口元だけは今でも鮮明に脳裏に残っています。

矯正豆知識

ドライマウス

口の中が乾いているのは良いことではありません。ドライマウス（口腔乾燥症）の原因は単純ではありませんが、少なくとも口の中が乾燥するのは、唾液分泌の低下が唾液の過蒸散（保湿不良）が主な原因です。唾液分泌の低下は、糖尿病、常用薬の副作用、ストレスやうつ病、加齢、顎をあまり使わないなどによって起こります。また、唾液の過蒸散は鼻疾患（鼻閉）、不正咬合による口唇閉鎖不全、口腔周囲筋の弛緩などによる口呼吸が原因で起こります。

口の中が乾燥していると、唾液の自浄能力（洗い流す力）が低下するだけでなく、唾液中の抗菌物質も少なくなるため、虫歯や歯周病の危険が増大します。ある種の不正咬合を治療する必要性はここにありますが、矯正治療前の唾液検査は、唾液の分泌量をまえもって知るための大切な手順の一つでもあります。

ひるま矯正歯科より

一月から受付が渡辺、清水に変わりました。よろしくお願いたします。
日曜、金曜の診療時間が長くなりました。詳しくは受付にお尋ねください。